

解答

- 一 問一 A ウ B イ C オ D エ E ア
問二 老眼になることを待ち望んでいる
問三 A 焼け石に水 B 馬の耳に念仏 C 青菜に塩 D 弱り目にたたり目
E ぬかに釘
問四 A 警報 B 苦情 C 蒸気 D 流行 E 制服
問五 眼鏡を作ったときの年齢

- 二 一 カ 2 ウ 3 エ 4 ア 5 イ
三 一 イ 2 ア 3 ア 4 イ 5 ア
四 一 カ 2 エ 3 イ 4 オ 5 ウ 6 ア
五 一 際（立って） 2 思い（立って） 3 沸き（立った） 4 浮き足（立った）
5 つま先（立って）
六 一 願 2 説 3 愛 4 別 5 理

解説

一 「老眼鏡が必要な身の上になった」たとき、かねてより「丸い眼鏡に対するあこがれ」のあった筆者が、「レンズの形や大きさが自由にできる」「理想の眼鏡フレーム」を見つけ、「生まれて初めて眼鏡をあつらえることになったの」は「十五年前」…。

問一 【A】（愕然としました）・【B】【C】（ひそかに心に決めていたのです）・【D】（うれしかったのは）・【E】（残念なことがひとつ）と、（ ）内に示した気持ちを表す言葉に注目しましょう。

問二 「根が楽天的な性分ですから」と、気持ちやクルリと切り替えました」からも、いわゆる「プラス思考」で「楽天的」な筆者の姿が感じられますが、何と言っても、設問にある「老眼になったあかつき」という言葉からそれがはっきりと伝わってきます。「あかつき」※「老眼になったあかつき」の「あかつき」のほうに傍点かアンダーラインをき」とは、かねてからの願いが実現したそのとき、という意味なので、老眼になることを筆者は願っていた（待ち望んでいた）ということになります。

問三 「〇〇に△△」の形の言葉をどれだけ知っているかが問われていますが、難問ではないようです。A 「焼け石に水」の「水」は大量の水ではなく、少しの水です。B 「馬耳東風」つまり「馬の耳に風」という言葉もありますが、これには「忠告」という言葉が生かされていません。ここは「念仏」がふさわしい。C 青菜に塩を振って実感しましょう。D 「泣きつ面に蜂」というのもあります。E 「暖簾に腕押し」でもよいでしょう。

問四 “製服”と書き誤らないように。

問五 なぜ「直径四十八ミリの丸眼鏡を作ってもらったのか。この後にある「レンズの直径の最大サイズが六十ミリなので、もう、自分の年齢と同じサイズの眼鏡はできません」から、年齢と関係がありそうです。この文章のはじめのほうで、「四十八歳でとうとう老眼鏡が必要な身の上」とあり、それが「十五年前」とくれば、筆者の今の年齢は六十三歳だから、直径六十三ミリのレンズの眼鏡はできないとなって、つじつまが合います。

二 いずれも文語調の言い回し（多くは連語）だが、ふだんの日常生活のなかで目にも耳にもする言葉です。一「やらずもがな」とは、やるべきでない・やらなくてよい、の意。「あらずもがな」「言わずもがな」などの表現もよく使われる。2「聞こえよがし」とは、とくに悪口や皮肉などを本人にわざと聞こえるように話すようす。3「すならでは」「の」とは、くだけ・くしかない、の意。後に打消しの語をとまって、「京都ならでは見ることのできない街のたたずまい」というようなぐあいに使われることも多い。この場合は、くでなくては・く以外には、という意味になります。4「さもありなん」とは、そうであっても全くおかしくない・当然だ、の意。5「いなや」は、「動詞」や「いなや」の形で使われ、くするとすぐに・くと同時に、の意。

三 アは逆接、イは動作の同時進行を表します。

四 ー「染め」「燃ゆ」から、「夕焼け」という言葉がうかぶでしょう。また、「早出の月白し」から、時刻が夕方であること、「白」と対照的なものごとがあることなども分かります。2 子どもが手で大きな円をつくって知らせる、見上げる観覧車と同じ高い位置にある、よく見ようとして窓ガラスをふく、などから満月を想像するのは容易でしょう。3 白い“それ”が庭の芝にやわらかく置く、“それ”を見て子どもが喜ぶと、いう“それ”は何でしょうか。4 夏野菜の茄子を洗っていったもの、見晴らしのよい峠では“それ”を避ける場所はない、月が上るような時間帯などから考えます。5 春雨なら濡れて行こう、あるいは、くれなゐの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨の降る（正岡子規）という言葉を見聞きしたことはありませんか。6 「空模様」から気象に関係あり、「空を剝がして」とは台風一過の青空のことか、あるいは「魔球を覚え新コース」は迷走する台風のことだろうか…。

五 「ゝ立つ」という語彙の豊富さが問われています。ー「際立つ」は、ほかとの違いがはっきりしていて目立つさま。2 「思い立つ」は、あることをしようという考えを起こすようす。3 「沸き立つ」は、大勢が熱狂して騒然となるようす。4 「浮き足立つ」は、そろそろ落ちて落ち着かなくなるようす。5 「爪先立つ」は、伸び上がるようにかかとをあげ、足の指先だけで立つようす。

六 全問同様、語彙とくに熟語の語彙の豊富さが問われています。いくつもの漢字と結びついて熟語を作る漢字のはずですから、たとえばーの例で、「悲鳴」などと、他と組み合わせる熟語を作りにくい「鳴」のような漢字を考えてはいけません。